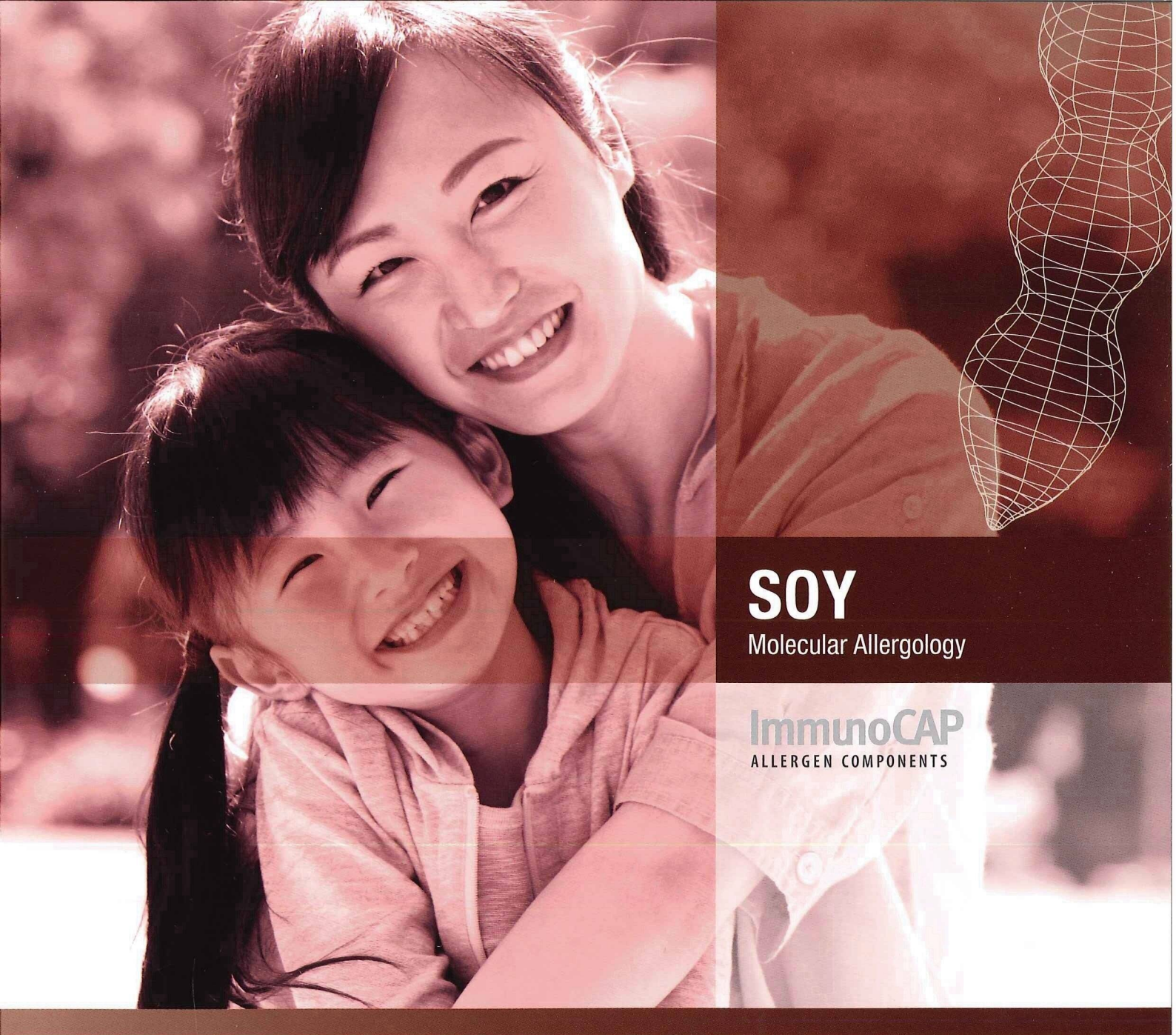




SOY

Molecular Allergology

ImmunoCAP
ALLERGEN COMPONENTS

学童期以降、成人に多い

大豆アレルギー診断に

イムノキャップ アレルゲンコンポーネント
f353 Gly m 4 (大豆由来)

保険適用
新発売

Thermo
SCIENTIFIC

成人に多い大豆アレルギー（豆乳など）の診断に有用な「Gly m 4*」に対する特異的IgEが測定出来るようになりました。

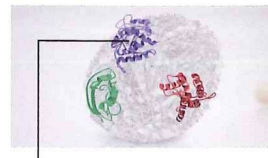
*「グリエムフォー」と呼びます



従来のイムノキャップ「大豆」では、成人に多い大豆アレルギー（豆乳など）では陰性となることがありました。

近年、成人に多い大豆アレルギーの原因の一つは、大豆の一成分である「Gly m 4」とあるという報告が多数あります^{1) - 9)}。

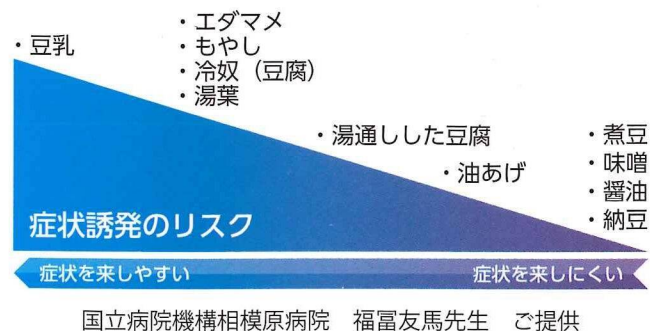
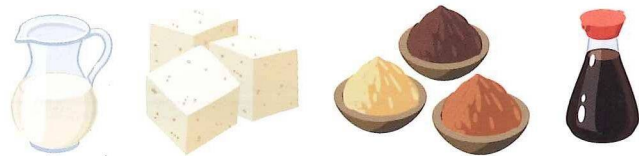
Gly m 4 特異的IgEを測定することで、これらの患者さんの多くを陽性として**判定可能**です。



「Gly m 4」は、大豆が含有するアレルゲンコンポーネントの一つです。

どんな大豆製品で症状を引き起こしやすいですか？

豆乳アレルギーの原因となるGly m 4は加熱や発酵などの加工処理で失活しやすいという特性を持っているため、納豆や醤油に比べ加工の程度が低い豆乳などで症状を起こしやすいと言えます。



増加している豆乳によるアレルギー

・豆乳の消費量は、日本において右肩上がり増加しています。

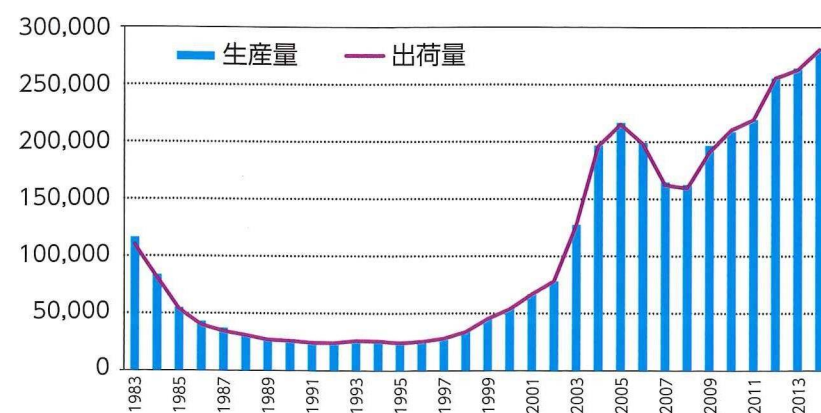
・豆乳を摂取した際に口腔内に掻痒感を覚えるなど、アレルギー症状を訴える患者さんも増加傾向にあると言われています¹⁾。

・平成25年12月には、独立行政法人「国民生活センター」からも「豆乳等によるアレルギーについて」の注意喚起がなされています。

http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20131205_1.html

・現在日本豆乳協会に加盟している企業では、スーパーなどで流通している豆乳製品に、大豆や豆乳による食物アレルギーに係る注意表示を記載しています。

豆乳の生産量と大豆使用量推移（単位:KL）



出典：日本豆乳協会「豆乳生産量等調査」より作図

実は大豆による食物アレルギーは2種類あります。成人に多い大豆アレルギーは重篤な症状を起こすことがあります。

Gly m 4の測定が有用です

★詳細は裏面 Q&A ご覧ください。

	成人に多い大豆アレルギー ★（経気道感作による食物アレルギー）	通常の大豆即時型アレルギー
どうやって発症するか	ハンノキやシラカンバ等のカバノキ科花粉に対してIgEを産生し、大豆摂取により大豆との交差反応によって発症します。 	大豆製品の摂取により大豆に対してIgEを産生し、大豆製品を摂取することで発症します。
おもな患者さん	学童期以降にみられ、成人に多い 春季花粉症がある方 	乳幼児に多い 
症状を誘発する食品	大豆製品 （豆乳、水分量の多い豆腐など） 詳細は裏面 Q&A ご覧ください。 	大豆食品全般
症状	口腔症状が多いとされていますが、 重篤な症状を起こすこともあります⁶⁾ 。	皮膚症状・粘膜症状・呼吸器症状・消化器症状 など
イムノキャップ検査項目	「Gly m 4」 「大豆」 ^{注)} 可能であれば「ハンノキ」または「シラカンバ」 （花粉に対する感作を確認するため）	「大豆」

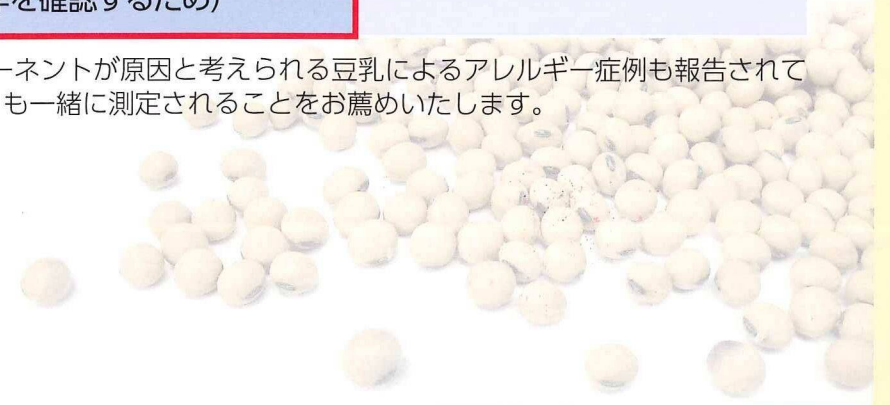
注) 「Gly m 4」以外大豆アレルゲンコンポーネントが原因と考えられる豆乳によるアレルギー症例も報告されているため⁸⁾、「Gly m 4」に加えて「大豆」も一緒に測定されることをお勧めいたします。



監修

相原 道子 先生

横浜市立大学医学部 皮膚科学
主任教授



イムノキャップ アレルゲンコンポーネント f353 Gly m 4 (大豆由来)

Q&A

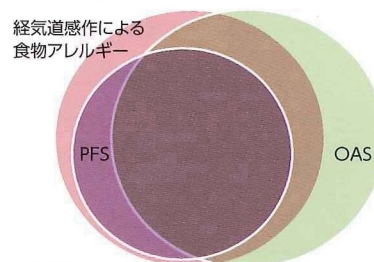
Q1. 花粉症と食物アレルギーは関連があるのですか？

A あります。食物アレルギーは大きく2つに分けられます。1つは食物の摂取によりIgEを産生するようになり、その食物を経口摂取することにより症状を発現する、つまり感作アレルゲンと症状発現の原因アレルゲンが同じである病態です。もう1つは花粉などを吸入することによりIgEを産生するようになり、タンパク構造が良く似ている成分を含む食物を摂取することで症状を発現する、つまり感作アレルゲンと症状発現の原因アレルゲンが異なる病態です。後者は経気道感作による食物アレルギーと表現することができ、PFS (花粉関連食物アレルギー症候群) やOAS (口腔アレルギー症候群) などと呼ばれ、多くは花粉症の患者さんに合併します。

Q2. PFS (花粉関連食物アレルギー症候群) とOAS (口腔アレルギー症候群) とは同じでしょうか？

A 必ずしもそうとは限りません。OASは症状を表す言葉で、食物摂取後すぐに主に口腔咽頭粘膜に症状がでる食物アレルギーの一症状です。一方、PFSはQ1でも述べている通り、病態そのものを言います。成人に多い大豆アレルギーも、数多くあるPFSのひとつです。PFSの患者さんの多くがOASであると考えられますので、これらの病態とOAS症状の関係をベン図で表すと右記のようになります。

図.PFSとOASの関係性



Q3. 成人に多い大豆アレルギーを引き起こす大豆製品は、豆乳以外にもありますか？

A あります。豆乳で症状を起こす例が最も多く報告されていますが、他にも水分を多く含む柔らか系豆腐や湯葉・モヤシなどでの症状誘発例が報告されています^{2), 3)}。

Q4. ハンノキ・シラカンバ花粉との交差反応によってアレルギー症状を起こす食物は、大豆以外にもありますか？

A あります。シラカンバやハンノキ等のカバノキ科花粉に関連するPFSとしてリンゴ・モモ・洋ナシ・イチゴなどのバラ科果物や、ヘーゼルナッツ・アーモンド・ブラジルナッツ・クルミなどのナッツ類、その他多くの果物や野菜での報告があります¹⁰⁾。

製品概要	イムノキャップ アレルゲンコンポーネント f353 Gly m 4 (大豆由来)
使用目的	血清中の大豆アレルゲンコンポーネント (Gly m 4) に対するIgE量の測定 (大豆加工品アレルギーの診断補助)
測定結果の判定法	陰性: 0.35UA/mL 未満 (クラス0) 偽陽性: 0.35UA/mL 以上 0.7UA/mL 未満 (クラス1) 陽性: 0.7UA/mL 以上 (クラス2-6)

参考

1. 皮膚臨床 2006; 48: 777-80.
2. 皮膚臨床 2010; 52: 1109-13.
3. 皮膚臨床 2013; 55: 1013-17.
4. 日咽科 2014; 27: 69-72.
5. J Dermatol 2009; 36: 50-55.
6. J Environ Dermatol Cutan Allergol 2007; 1: 31-38.
7. J Environ Dermatol Cutan Allergol 2007; 1: 124-30.
8. J Environ Dermatol Cutan Allergol 2011; 5: 431-438.
9. J Environ Dermatol Cutan Allergol 2012; 6: 60-66.
10. アレルギー・免疫 2010; 17(6):1031-1038

 FALCO bio systems

thermoscientific.com/phadia

© 2015 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved. All trademarks are the property of Thermo Fisher Scientific Inc. and its subsidiaries.
Manufacturer: Phadia AB, Uppsala Sweden.

お問い合わせ先

サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社

〒110-0015 東京都台東区東上野4-24-11 NBF上野ビル9F

Tel : 0120-489-211 / e-mail : info-jp.idd@thermofisher.com

1512-T-680-18

Thermo
SCIENTIFIC

A Thermo Fisher Scientific Brand